

2003年度 研究プロジェクトセミナー

学校改善に向けたアクション・リサーチに関する
学際的研究パネルディスカッション

開催日：2003年7月16日（水）

場 所：上越教育大学講義棟 302教室

午後の部 13:00～16:00

「研究者とアクション・リサーチ」

教育臨床の誤謬と可能性

秋葉昌樹 龍谷大学文学部講師
akiba_yo@mac.com

研究者と学校の係わり方

(研究者とアクション・リサーチ)

授業研究

・・・ 需給は一致？ 予定調和

エスノグラフィー

・・・ 暴露？ 批判？ 論評？

→ 研究の素材を持ち去るだけ

→ レシピを持ってこない、返さない

(何もしてくれない)

教育言説 → 問題をめぐる言説

学校が悪い

家庭が悪い

本人が悪い

《責任転嫁の構図》

カウンセリングにできること

内容の再陳述&感情の明確化

→問題の所在を個に帰す手法

= 「治った」

(参照) 西阪仰 1990 「心理療法の社会秩序I；セラピーはいかにして
セラピーとして作りあげられていくか」

小沢牧子 2002 『「心の専門家」はいらない』 (洋泉社)

教育臨床の第1の誤謬

問題の所在を、個人の問題
として処理すること

問題がなくなった=安心の構図

問題の個別処理の正当化



問題を見えなくするだけ

学校と家庭の幸せな共存への第一歩?!

安心の構図&文科省の政策成功の構図

ほんまかいな?!

教育臨床の第2の誤謬

事例主義という誤謬

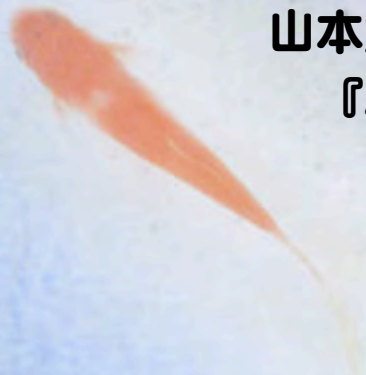
事例主義； 事例に基づき、いじめや不登校、
非行等の問題に対処するやり方、考え方

(参照) 秋葉昌樹2001「保健室登校からみる不登校問題：
教育の臨床エスノメソドロジー研究の立場から」

**事例は「ストーリーとして
『物語る』ことが必要である」
(山本・鶴田2001)**

山本力・鶴田和美編著2001

『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』北大路書房



事例主義とストーリー化作業

- 事例会議・事例検討会
- すでにレッテル貼りされた登場人物
- 当該の人物中心→行為の文脈&位置取りが再文脈化→共有ないしは共同構築

→ まなざしの固定化、理解の基点

**エスノグラフィーも
基本的に同じ・・・**

**行為者の視点重視とはいうものの
行為の脱文脈化&再文脈化**

研究の文脈で物語る。

Cf. 多声法

教育臨床研究における「図と地」問題

地の置き換え（行為・出来事の背景）



図の見え姿のずらし



教育臨床の可能性

教育臨床研究＝完成品でなく、メイキング

エスノメソドロジー研究＝当事者が
どのように文脈を作りつつあるか



コミュニケーションの成り立ちへの関心

メイキングとしての教育臨床研究

- ・ 論文、作品にまとめること自体に意味なし
- ・ コミュニケーションプロセスを書き起こすことに意味がある（教育の臨床エスノメソドロジー研究）



相対化・客体化

そのプロセス・データの共有・蓄積 = 《方法誌》

教育の臨床エスノメソドロジー研究

【どんなデータをつくるか】

コミュニケーション（会話中心）の
トランスクリプト

【形式の統一...とても重要！】

データの共有・共同構築、

再利用・再体験可能性

動機のないまなざし（経験の客体化）

コンセプト

バーガー&ルックマン

『現実の社会的構成』 (ペンギン版p.173)

会話のメカニズムは、経験のさまざまな要素に表出様式を与え、それらを現実世界のなかに明確に位置づけることによって、現実を維持している

研究者と学校（教育の場）との 新たな関係構築

- ・ ストーリー化以前のデータに基づく議論
- ・ 関心の交差点としてのデータ



研究者；データ分析をしたい

（コミュニケーションの成り立ちへの関心）

現場；係わりのプロセスの客体化・理解

（事例からはこぼれ落ちてしまう微妙なところ）

《保健室のエスノメソドロジー》

レッテル貼り装置としての事例検討会

脱レッテル装置としての保健室



どうつながるか？

《 Demonstration ^ 》

(参照) 秋葉昌樹1999「保健室のエスノメソドロジー」
『会話分析への招待』所収

秋葉昌樹2001「保健室登校からみる不登校問題：
教育の臨床エスノメソドロジー研究の立場から」
『教育社会学研究』所収